

F I A 研究会への期待

熊本工業大学 上野景平

フローインジェクション分析研究会が発足し、はや三年目を迎えることになり、会誌の発行、講演会の開催いづれも順調に推移していることはご同慶にたえないところである。本会会誌はF I Aに関する専門誌として世界最初のものであり、またF I Aに関する論文数においては我が国はアメリカ合衆国とならんで世界第一位にあり、日本におけるF I Aに関する研究が如何に活発であるかを物語っている。

一方、F I Aに関する国際会議は1979年、第一回 Flow Analysis国際会議として、アムステルダム（オランダ）で開催されて以来、第二回は1982年にルンド（スウェーデン）で、第三回は1985年にバーミンガム（英国）で開催され、第四回は1988年にラスベガス（アメリカ）で予定されている。これだけF I Aに関する研究の活発な日本を飛び越して、第四回をアメリカにとられたことは誠に残念なことである。第五回1991のFlow Analysis 国際会議は是非とも日本で開催しないことにはF I A研究会の面目にかかわろうというものである。今からその準備に着手しなければならない。

F I Aはご承知のように、ポンプと検出器があれば、簡単に装置を組立てることが出来、非常にフレキシブルな分析法としてアジア各国でも大変関心が持たれている。論文数から見ると、中国におけるF I A関係論文の増加率には注目すべきものがある。この様なことを考えると、F I A研究会はアジア地区におけるF I A研究の推進役をになう義務も見逃せない様に思われる。

今、本会は毎年二回のフローインジェクション分析講演会を開催しているが、講演会につづいて、2～3日のFIA WORK SHOP を開催し、アジア近隣諸国から講演会及びWORK SHOP への参加を呼びかけたら如何なものであろうか。もちろん、これらのことを実現するには、財政的問題もからんで来るとは思うが、そのことまで含めて、お考え願えれば幸いである。このような交流が実現すれば、アジア地区の科学技術の発展に寄与することはもちろん、近隣諸国との友好を深めることもできよう。切角、世界にさきがけて日本で組織されたフローインジェクション分析研究会の今後の国際的発展を願って止まないものである。